

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大和市中中央1丁目賃貸マンション計画	階数	地上10F
建設地	神奈川県大和市中中央1丁目506-5、506-6の各一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	99人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	物販店、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年11月5日
敷地面積	586㎡	作成者	株式会社アーキシップスタジオ
建築面積	338㎡	確認日	
延床面積	2,717㎡	確認者	

外観バース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

### LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 住棟を十字型の平面計画とすることにより、密集する都市部においても多方向からの通風採光を得ることができる計画とした。最小限の設備機器を設置するが、高効率の機器で構成した。外観上も周辺環境に整合する色彩計画を用い、駅前エリアの都市的な景観形成に寄与する計画とした。	<b>その他</b> 特になし。	
<b>Q1 室内環境</b> 中心となる住戸で2方向以上に開口部を設けることにより、通風/採光を得やすい計画とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 共用部に面する設備スペースを配置することにより、メンテナンス性に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 各住戸において二面以上の開口をつくること、バルコニーに対する開口を大きくすることにより、自然採光と通風を確保した。
<b>LR1 エネルギー</b> 高効率機器の導入に加え、夏季の日射遮蔽と冬季のダイレクトゲインを両立する断面形状とした。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 内装仕上げ材はすべてF☆☆☆☆、ODP0の冷媒を使用。	<b>LR3 敷地外環境</b> 隔地に駐車場を確保。計画建物の平面計上を十字型とすることにより、近隣への日影の影響を抑制した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される